

# 3く3く

第14号

里山建築研究所筑波山麓録  
Hidaka Ryūkyū  
©Hidaka Ryūkyū

## 特集

ゲストハウス古民家 江口屋  
イリアイテンポ

01  
06

## report・infomation

能登半島地震復興支援

08

写真／齋藤さだむ



## ゲストハウス古民家 江口屋

土間から茶の間を望む。床は張り替え、建具は既存のものを活かした。

ゲストハウス古民家「江口屋」は、霞ヶ浦に半島状に突き出た突端に位置し、目の前には広大な湖を眺めることができる。元々この地域は出島と呼ばれ、その名のとおり水運・水産業の拠点で人とモノが行き交う活気のある地であった。築100年以上の江口屋は、建物からその歴史をうかがうことができる。屋号の由来である造り酒屋で一時代を築き、後に郵便局として地域を支えた。晩年は当家の住宅としてその役割を終えようとしていたところ、県と共同で開発されている歩崎（あゆみざき）エリアにあてはまることもあり、かすみがうら市に寄贈された。

歩崎エリアには漁港、水族館、博物館、公園など観光施設が揃うものの宿泊施設がなく、観光業に力を入れる地域にとって喫緊の課題であった。2020年に茨城県の古民家モデル改修





江口屋鳥瞰図／作画 里山建築



江口屋正面。門右の蔵はブリュワリー。

事業を活用し、その第一号となった。

霞ヶ浦のロケーションを活かし、江口屋でも使われてきたカマドで炊いたご飯に霞ヶ浦で水揚げされた白魚を朝食として楽しむこともできる。食事の一品をとつても話題が付きなが、建物も一緒に話るのが江口屋を運営する今野さん。地元の松が梁として、柱や板材にも地元の杉が使われており一次産業と密接だ。趣のある古民家に宿泊することでそれらを五感で体験することができ、云われを説明すると宿泊客は関心を示すのだという。

造り酒屋から始まった江口屋を踏襲するように、隣敷地内の土蔵をクラフトビールのブリュワリーとしてリノベーションを行った。2022年より醸造を開始し、クラフトビールでも宿泊客をもてなしている。土蔵の二階はミーティングルームに改装し、多様な利用が可能だ。

さらに近隣の古民家を改修し、新たなゲストハウスがオープン予定である。インバウンドによる外国人観光客も増え、日本らしさを体験できる宿泊施設が増える。



写真／里山建築

北側から母家を望む。井戸の建屋は茅葺屋根。



既存の梁や土壁を現した板の間。



明るく開放的になった土間。



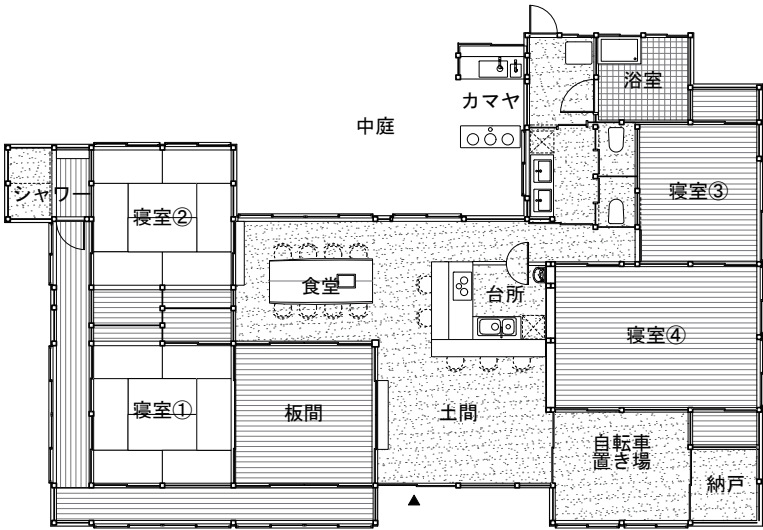
改修にあたっての解説

江口屋はもともと造り酒屋を営む旧家であり、屋根は茅葺で現在は金属板で覆われている。廃業後に特定郵便局として増改築され、その間取りはコの字型となった。さらにその後、コの字型の中庭部分に屋根をかけて台所として増築されていた。増築部は、雨漏りをしているだけでなく、採光や通風を遮っていたため、建物内部が暗く、同時に湿気と呼び傷みもすすんでいた。

限られた予算と工期でゲストハウスとするために、傷みのある増築部を取り除き、当時の姿に戻す減築案で所有者、設計者ともに一致した。減築し、新たに掃き出し窓を3間文大きく設けた。調湿機能のある瓦骨材をいれて土間を打ち直し、明るく風通しの良い開放的な土間となった。その土間を中心に左右に客室を配置し、客室だけでなく北側の中庭への動線を確保。カマドとタイル貼りの外洗いは解体せずに残しておいた。昔ながらの炊事場だ。朝食ではカマド焼きご飯が提供され、夕食ではバーベキューやピザ焼き体験等も楽しむことができる。現代生活では見ることが少なくなった土間は屋外と屋内の中間といえる。まさに古民家ならではの柔軟性のある場所と言える。



昔の炊事場は取り壊さずに活用。朝食のカマド焼きご飯は宿泊者から好評。



母家南側に位置する蔵。土壁は傷んでいたため、板張りとした。



蔵の二階はミーティングルーム。



北側の開放的な掃き出し窓。南北に開口部ができたことにより明るく風通しの良い土間となった。



## イリアイテンポ



商店街へ面しているイリアイテンポ。利用者はこちらから訪れる。

町家建築が立ち並ぶつくば市北条。その東端の古民家がレンタルスペースとして地域振興を目的にリノベーションされた。しばらく空き家となっていたが、目立った傷みもなく良好な状態であったこともあり活用へと繋がった。現代の入会地を目指しイリアイテンポと名づけられた。共同代表の矢島さんに話を聞いた。

矢島さん 「2020年8月、つくば市の筑波山麓や北条でまちづくり、地域活性化に関わるメンバー8名で合同会社Hirai tampoを設立しました。つくば市の過疎地域のまちづくりを後押しするコンペティションや、クラウドファンディング、銀行からの借り入れなどで資金調達をし、北条市街地にある築約百年程の古民家をリノベーションして『田舎のサードプレイス』をテーマに、たまり場や地域商品の販売、レンタルスペースとして活用しています。

IT技術者がメンバーにいることもあり、IoT先端の古民家を目指すことを場のコンセプトにしました。

リノベーションに必要なポイントとして、①傷んだ床や壁などの補修。②エアコンの導入と断熱。③古民家の雰囲気の良いを残しながら現代的な空間に。この3つのポイントをクリアする必要があります。予算に余裕がないため、リノベーション作業には当時の代表も加わり、大工さんや左官屋さんに教えてもらいながら一緒に作業を進めました。こうして無事に完成した空間は、建築士のひらめきと工夫もあり、三つのリノベーションに必要なポイントをクリアしながら、ゆったりとした時間の流れる空間で日常とは違った感覚を利用者に提供することができています。」

イリアイテンポは、農家としての構えをもっており、母家は田の字型の間取りで構成されている。町家風の通り土間にもなっていて、母家と南側の裏通りに設けられた門の間には、中庭を囲むように納屋や蔵が並んでいる。

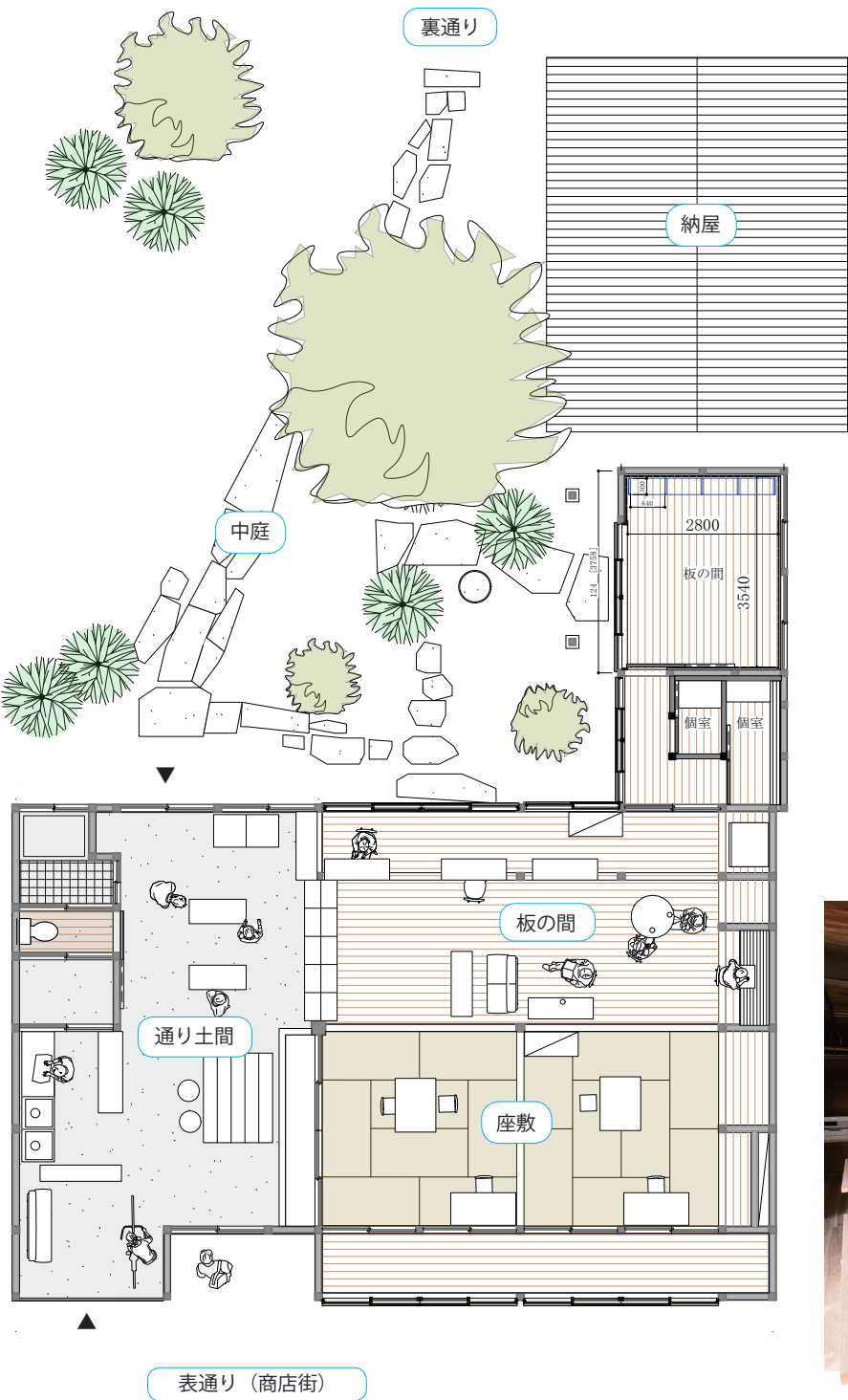
北側玄関から入ると、土間から立派な松梁と竹簀子天井を見上げることができる。そこはフリースペースで誰もが気軽に訪れることができる交流の場である。

有料スペースの座敷は、四室全て畳の和室であったが、うち半分を板間に改築。板の間では机と椅子が並びオフィススペースとしてデスクワークができるよう整えた。座敷と板の間の四室あるが建具は取り除かれ大広間のようにゆったりと使うことができる。

座敷では習い事等が定期的に、中庭では餅つきや夏祭りが催されたこともあり賑わいを見せている。民家にはその土地で暮らしてきた生業がよく現れる。商店街に面し、農家と町家としてのつくりを持つイリアイテンポならではの利用法であり魅力となっている。



フリースペースの土間には特産品が並ぶ。誰でも交流が楽しめる。



DATA イリアイテンポ  
用途／レンタルスペース  
所在地／茨城県つくば市北条 145  
構造・規模／木造・平屋  
延床面積／ 147.4㎡

主な仕上げ  
屋根／瓦葺き（既存）  
外壁／スギ板（既存）  
内壁／スギ本実板厚 15mm  
床／スギ本実板厚 30mm

主な材  
柱・梁／スギ（茨城県産材）、既存構造材  
板材／スギ（茨城県産材）  
断熱材／床、壁 フォレストボード  
外部建具／アルミサッシ（既存）  
一部木製建具（既存）



板の間はオフィススペース。



## 能登半島地震復興支援 復興住宅のモデルハウス

能登半島地震発生後半年が経過した今日においても被害の甚大な輪島、珠洲などの奥能登地方はもとより、能登半島全体におよぶ地域の被災建物の殆どは倒壊したままとなっています。半壊したま解体、撤去が進まず復旧、復興の見込みがまったく見えない状況が続いています。

そのような状況の中で、里山建築研究は板倉建築協会の石川県、富山県の会員などと現地を視察し被災者とも相談をして、復興支援計画をたてました。

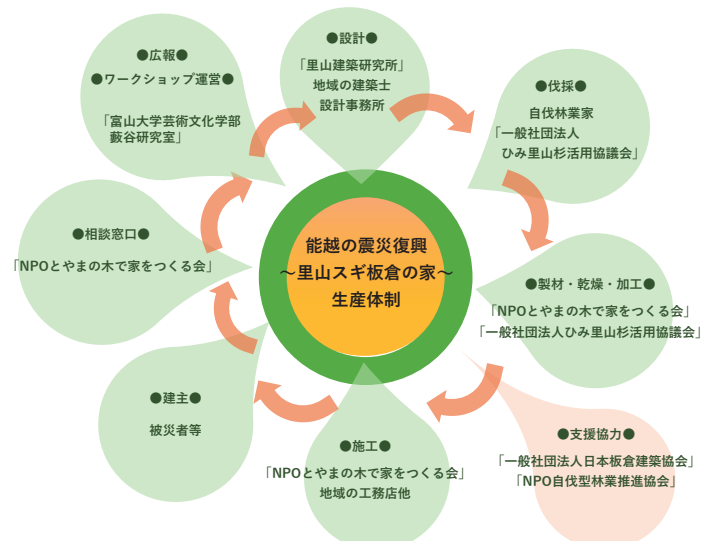
奥能登地方は未だ道路整備等の問題で、支援が有効に進められる状況にはなく、アクセスのよい富山県の氷見、七尾地区において板倉構法による復興支援事業を進めるのが実行可能な方策であると考えます。

東日本大震災における三陸の復興支援の縁で、氷見に居住する方の住宅再建の依頼を受けました。それを一つの足掛かりとして板倉の復興住宅のモデルを建設し、奥能登への展開を見据えています。

幸い富山県氷見には、「ひみ里山杉」という質、量ともに十分なスギの産地があり、現地の製材所とも以前よりお付き合いがあります。富山県の「NPO とやまの木で家をつくる会」の代表者も縁のある筑波大学の卒業生で、これらの方々の協力体制でこの事業を進める予定です。



震災から半年以上経つ輪島市。復興が進まず倒壊した建物が目立つ。



### 株式会社里山建築研究所

〒100-0431  
茨城県つくば市北条一八四  
TEL: 029-867-1086  
FAX: 029-867-1083  
URL: <https://satoyama-archi.co.jp/>  
E-mail: [sa@satoyama-archi.co.jp](mailto:sa@satoyama-archi.co.jp)

### 会社概要

里山資源を生かした居住スタイルを探索実践的な試みの場として、筑波山の山裾に開設したのが、里山建築研究所です。現代の里山に循環を取り戻すべく考案された板倉の家を提案し、時代の趨勢によって変わり続ける民家の現代のかたちを探ることが、私達の試みです。

### しごと

設計・設計監理・請負工事  
「板倉の家」：新築、改築  
「民家再生」：改築、移築  
「茅葺き」：葺き替え修繕、新築  
「企画制作、調査研究」  
「地域づくり支援活動」

### 編集後記

古民家再生事例の号となりました。共に地域振興も目的として活用されています。古民家が地域の財産として見直されており嬉しい限りです(K)

